

「ぼうさいこくたい2025 in 新潟」の開催報告 語り合い支え合い～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～

内閣府（防災担当）普及・防災教育・NPOボランティア連携担当

1. はじめに

第10回防災推進国民大会、通称「ぼうさいこくたい2025」を9月6日（土）、7日（日）に新潟県新潟市で開催しました。「ぼうさいこくたい」は、内閣府、防災推進国民会議及び防災推進協議会が主催し、開催地自治体のご協力をいただきながら、産官学、NPO・市民団体や国民が日頃から行っている防災活動を全国的な規模で発表し、交流する日本最大級の防災イベントです。

ぼうさいこくたいは、2015年の「第3回国連防災世界会議」で採択された国連の「仙台防災枠組み2015-2030」の中で、自助・共助の重要性が国際的な共通認識とされたことを受け、国民のさらなる防災意識向上を図るべく、各階層の有識者から成る「防災推進国民会議」が設立され、2016年に、この防災推進国民会議、防災推進協議会及び内閣府の三者が主催者となって、第1回を開催したのが始まりです。

今回は、2004年の新潟県中越地震から21年、2007年の新潟県中越沖地震から18年を迎えた、新潟県、新潟市ほか地元関係機関の協力の下、「語り合い支え合い～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～」をテーマとして新潟県で開催しました。

本番に向けて機運を高めることを目的として、今回新たな取組としてイベントを開催することとし、本年7月13日（日）にミライエ長岡で「中越地震・能登半島地震等と災害への備え」をテーマとして開催しました。

9月6～7日の大会当日は、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターを会場として開催し、

出展数は471（うちオンライン21）、現地来場者数は約1万9,000人といずれも過去最多となりました。セッション等はオンラインでも配信され、その総視聴数は約1万2,000回となりました。さらに、9月7日（日）には愛子内親王殿下がお成りになり、能登半島地震での災害福祉支援の状況や課題を振り返り今後のあり方などについて討議するセッションをご聴講されました。

2. オープニングセッション・ハイレベルセッション

オープニングでは、主催者を代表して坂井防災担当大臣及び清家日本赤十字社社長（防災推進国民会議議長、防災推進協議会会长）が挨拶とともに、開催地代表として花角新潟県知事及び中原新潟市長からも挨拶が行われました。そして、歌手の小林幸子氏、防災音楽ユニットBLOOM WORKSと新潟明訓高校による出し物が会場を盛り上げるとともに、全国に向けて防災のエールを送りました。ハイレベルセッションにおいては、「中越地震等と復興・災害への備え」をテーマに、矢守克也京都大学防災研究所教授のコーディネーターの下、宮崎悦男小千谷市長・小林幸子氏など、新潟にゆかりのある方々が、中越地震等の様々な災害での経験や教訓を踏まえつつ、有識者の知恵や見解を織り交ぜて議論を行い、全国へ発信することによって、国民一人ひとりが改めて災害への備えの大切さを見つめ直すきっかけとなりました。

3. セッション、ワークショップ、屋外展示等

今大会では、延べ470を超える団体に出展い



ハイレベルセッションでは「中越地震等と復興・災害への備え」をテーマに討論



計306もの現地のブース・パネル展示



高校生のパネル展示を視察した
坂井内閣府特命担当大臣（防災）



愛子内親王殿下がセッションをご聴講

ただき、さまざまな取組や知見の共有・発信を行いました。具体的には、講演型のセッションや、来場者が楽しく学べる体験型ワークショップ、ブースやポスターで各団体の取組を発表するプレゼンテーション及びポスターセッション、車両展示などの屋外展示が行われました。セッションでは「災害中間支援組織の果たす役割」をテーマとした災害ボランティアに関する事例報告やパネルディスカッション、令和8年度に設置が予定される「防災庁」の果たすべき役割に関する講演等が行われました。また、出展団体には高校生から3団体、大学生から45団体と、多くの若い方々にもご参加いただきました。防災に関する様々な観点から知見が共有・発信されるなど、オールジャパンで防災意識の向上に取り組む契機となる大会となりました。

4. 次回開催のお知らせ

次回の「ぼうさいこくたい」は、鳥取県倉吉市で2026年10月17日（土）、18日（日）に開催する予定です。鳥取県は2016年（平成28年）10月21日に発生した鳥取県中部地震の震源地で、鳥取県中部地震を契機に、毎年、地域が主体となって、震災のマイナスをプラスに転じ、地域の未来を築いていくことを目的に「福高祭（ふっこうさい）」を実施する等、復旧・復興や防災の普及啓発に関係する様々な活動を実施しています。

内閣府では、「ぼうさいこくたい」の開催を通じて、地元自治体の協力も得ながら、災害の教訓・記憶の伝承・継承の促進や、国民一人ひとりの防災意識の向上につながる普及啓発の推進、防災関係者の交流の機会の充実等に取り組んでまいります。